

徳大生が活躍する最先端の職場から



■自分の目的を見つげるために

蛍光体とLED(発光ダイオード)の開発において世界をリードする日亜化学工業株式会社。同社で、まさにその心臓部とも言える窒化物、つまりガリウム窒素を使った発光ダイオードの研究に取り組んでいるのが向井さんです。そして40人の研究所員のうち半数近くが徳大の先輩という当学と縁深い職場でもあります。そのようなこともあり、向井さんは非常勤講師としても、後期に月1度の特別講義を行っています。

まさか自分が母校で講師をするなど、夢にも思わなかった向井さんの学生時代は、「勉強はあまり好きじゃなかったです。部活も一年でやめてしまったし、あまりまじめな学生ではなかったんじゃないでしょうか」という向井さんが、これだけはまじめにやっておけば良かったというのが英語です。毎年のように学会に出席

するために海外に行きます。また論文などは全て英語ですので、仕事以上に勉強しました。また大学への要望として、

「もの作りのおもしろさがわかれば就職の目的もできると思います。だから同じテーマで1年ぐらいかけて勉強できるといいんじゃないでしょうか。つまり、時間をかけてじっくりと実験や実技に取り組む授業だと、生徒たちは興味を増し、自分の進むべき方向や目標も見えてくるのではないのでしょうか」

■今を大切に、時間を大切に

「工作などはもともと好きで、回路の設計のようにあれこれ考えることも好きですね」

ということと、好きなことを生かすために県外の大手電機メーカーに就職が決まっていました。が、家庭の事情で日亜へ。「実は、最後まで単位が残ったのが半導体だったんです」

そんな向井さんが、入社して以来もいつも印象に残っているのが、自分の力で赤色LEDを輝かせたことだそうです。半年ぐらいは明るく光らず、何度も実験を繰り返しました。

「赤色はすでに多くのメーカーが作っていましたから、会社の売り上げにはなりませんでしたが、先輩にも指導してもらいながら、自分の力でやりとげたという満足感が後々の仕事にも活かされていると思います」

これからも自分の納得のいく製品を作りたいという向井さんから、後輩へのアドバイスは、「就職そのものが大変な時代ですが、就職したらとにかく自分の時間が少なくなります。今の時間を大切にしてください。それとどれだけ知識があっても経験のある人にはかきません。仕事に必要なことは会社に入ってからでも吸収できますから、今は基礎をしっかりとやっておいてください。とにかく会社ではやる気、行動力、体力が必要ですよ」とのことでした。

